

私立 北星学園大学 北星学園大学短期大学部

取組名称 就職相談員の雇用による就職支援の充実強化と就職相談の質的向上

取組担当者 経済学部 教授・キャリアデザインセンター長 松本 康一郎

1. 本学の概要

本学園は、1887(明治20)年に宣教師サラ・C・スミスにより、キリスト教に根ざした「スミス塾」を開塾し、北海道の女子教育に着手したことから始まり、1951(昭和26)年に女子短期大学、1962(昭和37)年に男女共学の4年制大学の扉が開かれ、今年創立124年目を迎えた。

高等教育部門は2002(平成14)年に、大谷地キャンパスに集約され、学部は文学部、経済学部、社会福祉学部の3学部8学科と、それぞれに研究科を併せ持っており、2学科の短期大学部と併せ、約4,500名の学生が学んでいる。

建学の理念は「キリスト教の精神に基づいた人格教育」であり、学問を通して人間性・社会性・国際性を備えた人材の育成である。人としての生き方、社会人としての在り方、教養人としての「心」を養う人間性。自分自身の価値、ありたい姿を大切に、地域社会に貢献できる人材育成を目指す社会性。世界の多様な人々と異文化に触れ、人々を理解し、知らないということを知る国際性。具現化された3つの柱を基本に、キャリア支援を展開している。

1学年約1,100名、男女比は4対6と女子学生が多く、出身者のほとんどが道内出身であり、そのうち札幌出身が5割を超えるため、就職先としても非常に地元志向が強い傾向にある。

2. 本取組の概要

本学の就職支援では、メールやインターネット等を介さない学生との直接対話を重視した相談体制を基本方針として掲げている。2009(平成21)年度の就職支援課は、課長を含め専任職員6名と派遣職員2名に加え、2005(平成17)年度から採用されたキャリアカウンセラー1名の合計9名で相談体制の整備を行ってきた。しかしながら、リーマンショックの影響で昨年秋以降の経済不況に伴う雇用情勢の悪化が、4年生の就職活動

に深刻な影響を及ぼし、昨年10月の内定率が前年度を大幅に落ち込む事態に陥った。

本学としてはこの状況を緊急事態として重く捉え、2009(平成21)年10月に企業開拓を専門に担当する職員1名とキャリアカウンセラー有資格者1名の増員採用を急遽決定し、本学における就職支援体制の更なる充実・強化を図ることとした。

本取組は、選定された就職支援推進プログラムにおける就職相談員の雇用により、就職相談の質的向上と就職支援の一層の充実・発展を目指す補助事業であり、内容は以下のとおりである。

(1)「キャリアデザインセンター」構想の基本は、「より広範囲な学生への、より専門性の高い就職支援」である。就職支援課職員とは別にキャリアカウンセラーを置くことで、ES(エントリーシート)添削や面接練習等への対応も一層強化される。

また、自己分析・企業研究を通して「自ら考える力」の養成を目指して、キャリアデザインプログラムを毎年で30講開講(毎回600名程度の学生が参加)する。キャリアカウンセラーも講師の一役を担っている。

(2)キャリアカウンセラーをさらに1名増員し、年間延べ11,600名程の学生が利用する個別相談等に対応し、待ち時間が長すぎるという課題を緩和し、減退しつつある未内定学生の就職意欲の維持・向上を図る。

表1 学生来課相談者数 2010.8.26現在

年	月	1～	5～	9～	年間 (人)
		4月	8月	12月	
2008	合計	3,323	2,511	2,724	8,558
(平成20)	1日平均	46	32	35	38
2009	合計	4,169	3,476	3,996	11,641
(平成21)	1日平均	56	44	52	51
2010	合計	4,876	3,006		7882
(平成22)	1日平均	68	38		78

(3)本取組は就職支援課職員がキャリアカウンセラーのスキルを学ぶことにも繋がり、就職支援課全体にお

けるコンサルテーション能力の向上にも資するものである。

外部から採用したキャリアカウンセラーは「企業（採用する）側の視点」で学生支援に取り組むため、専任スタッフにとって、新たな視点を持つとともに質向上が図られる。

さらに就職支援が「内定」という結果に繋がることでスタッフ自身の労働意欲が増し、また学生にとっては信頼できるプロ集団に支援してもらうことで就職活動に挑む自信が得られるという効果が高まる。

これらを通じて、選定された取組をさらに充実・発展させ、本年度の内定率向上を目指すとともに、2009(平成21)年度よりさらに厳しさが増すと言われていた現4年生の就職活動において、学生の就職内定に直結する支援強化を図ることが、本取組の概要である。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 趣旨・目的

本取組の目的は、質と量の両面での改善であった。

(i) 質の改善

具体的にはキャリアカウンセラーの複数配置により、複雑かつ多岐にわたるカウンセリング要素を盛り込むことを念頭に置いた取組である。

就職支援課職員とは別にキャリアカウンセラーを置くことで、キャリアカウンセリングを必要とする学生の就職相談への対応を可能とし、個別相談への対応、ES（エントリーシート）添削や面接練習等への対応も一層強化する。

さらに、支援スタッフの質的支援内容のレベルアップを図り、カウンセリング、コーチングの手法も意識しながら支援のための技法を向上させるための取組でもある。

これら質の改善が学生との直接対話を重視する本学の就職支援のさらなる充実を図り、相談スタッフ全員が学生個々人の人間性や資質の把握を可能にし、信頼関係に基づいた就職支援に資するものである。

(ii) 量の改善

また、キャリアカウンセラーの増員によって学生の相談待ち時間の短縮・改善を試みた。絶対量が不足だと指摘されていた支援スタッフの増員も、学内事情等厳しい環境下の中では困難な状況にあり、このキャリアカウンセラーの複数配置により、これまで深刻な問題であった待ち時間の短縮・改善を図ることも一方策であった。

上記取組が相乗効果として発揮されることにより、就職支援課スタッフの資質向上に連動し、学生一人ひとりのニーズにあった企業紹介等支援充実に繋げることが、就職後の離職率の低下に繋がると考えている。

(2) 達成目標

結果的に不況によって落ち込んだ内定率を回復させることである。2009(平成21)年度については内定率70%を達成目標としたが、最終内定率【内定者数/就職希望者数】90.5%、就職率【内定者数/(卒業生数-進学者数)】73.6%という高い数値を得ることができた。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 具体的内容

雇用環境の劇的悪化による非常事態を受け、キャリアデザインセンター長はキャリアカウンセラー及び企業求人開拓者の緊急採用の要請を行った。この要望は大学の最高意思決定機関である大学評議会において承認されるとともに、全学的支援体制で取り組むことを確認した。

企業求人開拓者及びキャリアカウンセラーの紹介については、札幌商工会議所、雇用・能力開発機構北海道センター等を通して依頼した。

(2) 実施体制

学生数の多さから総論にならざるを得ないキャリアデザインプログラム、1対1の個別相談。その中間的な位置付けとして、キャリアカウンセラーによる少人数ゼミを開講。キャリアカウンセラーは、自身の採用担当者の経験から大学職員では気付かない対策を具体的に学生支援に盛り込むことで学生の理解度も高まり、補完することで学生の意識・意欲の向上に繋がったのである。その支援方法は全スタッフにも周知・導入され、結果に直結していった。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 評価体制

評価のための既存組織として「自己点検評価委員会」を設置しており、全学的なPDCAサイクルは確立されている。客観的データとしては「卒業後の状況（産業別）」、「業種別希望状況と求人状況及び内定率」、「学科の企業別就職者の状況」等の指標を毎年点検し、今

回の緊急取組の結果・成果については、別途大学評議会等へ報告することとなっている。

また、この成果は学生への各種アンケート調査の中の「学生支援体制の満足度調査」からも集計可能であり、満足度の高さを読み取ることができると期待している。

6. 本取組の実施計画等

本取組の実施計画は次のとおりである。

(1) 2009(平成21)年10月～

未内定学生を対象とした学内での企業説明会の実施とマッチング支援を強化する。

(2) 2010(平成22)年2月

例年どおり次期3年生向けの学内企業セミナーを開催する。

(3) 2010(平成22)年4月

未内定のまま卒業した学生達を対象に、各種「新卒者就職支援プロジェクト」の情報紹介と参加支援を実施。

(4) 2010(平成22)年1月～2011(平成23)年3月

カウンセリングを多用し、個別相談・ESの添削・面接練習を企業受験の必要条件とし、学生の質強化を図る。

(5) 2010(平成22)年1月～2010(平成23)年3月

カウンセリングも導入し、知名度のない企業の受験機会を広げ、マッチングを強化する。

(6) 2010(平成22)年1月～2010(平成23)年3月

新卒求人の重要性を再認識させ、少ない求人ながら卒業まで諦めずに学生を励まし続ける支援を強化する。

(7) 2010(平成22)年5月～

企業開拓による採用求人情報の掘り起こしを強化し、企業とのマッチング支援を強化する。

(8) 2010(平成22)年6月～

未内定学生を対象とした学内での企業説明会の実施とマッチング支援を強化する。

(9) 2011(平成23)年2月

例年どおり次期3年生向けの学内企業セミナーを開催する。

等、企業の採用時期に合わせた支援強化に取り組む。



写真1 学生個別相談の風景

